

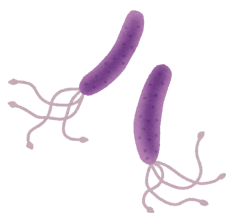
ピロリ菌と胃がんの関係

～ピロリ菌を知り、未来のがんリスクを遠ざける～

胃がんの原因の9割以上は「ピロリ菌」の感染によるものです。正しい知識を持ち、適切な検査を受けることが、将来の健康を守る鍵となります。

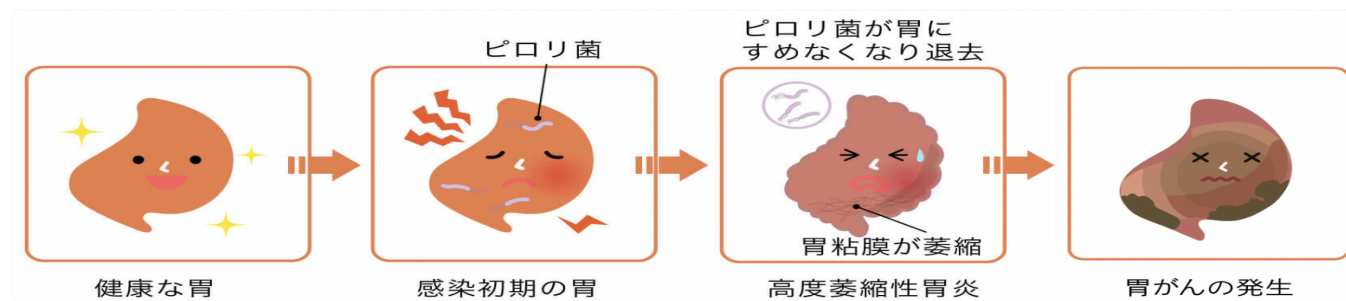
■ 1. ピロリ菌はどうやって感染する？

多くは乳幼児期(5歳位まで)に、汚染された水や食べ物、親からの口移し等を通じて感染します。大人になってからの日常生活で感染することはほとんどないため、一度除菌に成功すれば再感染のリスクは非常に低いのが特徴です。



■ 2. 「除菌」すれば安心、ではありません

日本人が一生のうちにがんと診断される確率は「2人に1人」。胃がんはその代表格です。ピロリ菌は除菌できますが、過去にダメージを受けた粘膜(萎縮性胃炎)からは、除菌後もがんが発生することがあります。「除菌＝リスクゼロ」ではないため、定期的な内視鏡検査による継続的なチェックが不可欠です。



■ 3. 自分に合った「検査法」を選ぼう

当センターでは、状況に合わせた最適な検査をご提案しています。

- 内視鏡検査：胃カメラで直接粘膜を観察して診断します。菌の有無だけでなく、がんの有無や粘膜の状態を同時に確認できる最も確実な方法です(必要に応じて組織を採取する生検を行う場合もあります)。
- 負担の少ない検査：薬を飲んで「息」を調べる呼気試験(除菌判定に最適)や、便・血液・尿から手軽に調べる方法もあります。



初期の胃がんは全く症状がありません。40歳を過ぎたら、まずは一度当センターで「自分の胃の状態」を確認してみませんか？